



15、16日に堺まつり 「すずめ踊り」が 仙台から里帰り

約400年前に堺の石工が踊ったのが始まりと言われる仙台市の伝統芸能「仙台すずめ踊り」が、15、16日に堺市で開かれる「堺まつり」に「里帰り」する。来年4月の政令指定都市移行を目指す堺市と、指仙市の「先輩」である仙台市との交流が狙い。約70人の踊り手が仙台からやってくる。

来ていた石工が即興で踊ったのが、仙台で発展したという。扇子を翼に見立て羽ばたかせたり、跳びはねたり、えさをついたりなど、さまざまなしぐさをしたりするのが特徴。毎年5月に開かれる「仙台・青葉まつり」などで披露されている。

堺まつりを主催する堺観光コンベンション協会から招待を受けた「仙台すずめ踊り連盟」が、仙台市民に参加を呼びかけたところ、100人を越す人が応募した。特別の合同チームを結成し、14、75歳の男女が練習を重ねている。

同連盟の谷徳行副会長(54)は「堺の人の度肝を抜くような踊りを見せたい。これをきっかけに両市民の交流が広がればうれしい」と意気込む。

堺まつりは、約80団体、7千人が参加するパレードが最大の目玉。火縄銃の空砲を撃つ催しもある。

えさをついたりばすズメのように跳ねるのが特徴の「すずめ踊り」は仙台市提供